

令和 6 年度

「運営に関する計画」
(中間評価)

大阪市立玉造幼稚園

令和 6 年 9 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本園は、広い敷地の中に、多種類の木々や、築山、川、芝生がある起伏に富んだ園庭があり、自然環境に恵まれている。その中で、子どもたちは思う存分体を動かして遊び、園生活を楽しんでいる。しかし、広い場での多岐にわたる遊びにおいて安全への意識が不十分なところがある。そこで、全教職員が共通理解し、子どもたちと話し合いながら遊びのルールづくりを進めるなど、安全への意識を高めていきたいと考えた。
- 園生活に入るまでの子どもたちは、個人差はあるが、限られた人との関わりの中で育ってきている。園生活が始まり、今までに関わったことのない人に出会うと、どうしてよいかわからず戸惑っている姿が見られる。まずは、幼稚園生活を安心して過ごせるように、互いにまると受け入れられる人間関係を築きたいと考えた。そして、自分の思いを出したり、相手の思いに耳を傾けたりしながら、教え合ったり助け合ったりする子どもに育てていきたい。
- 本園の子どもたちは、大人と話をすることは好むが、いざという場面ではっきりと意思を出しにくい姿があるように感じる。大人が子どもの思いを先にくみとってしまわないように保護者に啓発するとともに、日々の様々な活動を通して、自分の思いや考えを伸び伸びと表現する子どもを育みたい。
- 子どもたちは、身の回りの清潔に関する基本的生活習慣は身に付けている。しかし、自分に健康についてはあまり関心がないように思う。園では、子どもたちが自分の健康に興味や関心をもち、自ら必要性を感じたり友達と一緒にやってみようという意欲をもったりしながら生活習慣を身に付けられるよう、家庭と連携しながら保健指導に取り組みたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 保護者向けの年度末のアンケート調査で、「＜園庭での遊び方＞や＜廊下では歩く＞などのきまりを守ろうとするなど、お子さまの安全への意識が高まってきましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年80%以上にする。
- 保護者向けの年度末のアンケート調査で、「自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いにまると受け入れ、助け合う気持ちをもつようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者向けの年度末のアンケート調査で、「様々な活動の中で、自分の思いや考えを表現し、試したり、工夫したりするようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年80%以上にする。
- 保護者向けのアンケート調査で、「幼稚園は、子どもが自分の健康に興味や関心をもつように努めている」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教職員が積極的に研修に取り組み、自身の資質向上を図る。
- 保護者向けの年度末のアンケート調査で、「幼稚園は、園内の活動の様子や子どもの育ちを地域や保護者に発信しようと努めている」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

- 令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、＜園庭での遊び方＞や＜廊下では歩く＞などのきまりを守ろうとするなど、安全への意識が高まってきましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いにまるごと受け入れ、助け合う気持ちをもつようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、様々な活動の中で、自分の思いや考えを表現し、試したり、工夫したりするようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、『体の健康』や『食育』について指導している」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和6年度末の教員向けアンケート調査で、「研修したことが、自身の資質向上につながった」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、園内の活動の様子や子どもたちの育ちを地域や保護者に発信しようと努めている」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、＜園庭での遊び方＞や＜廊下では歩く＞などのきまりを守ろうとするなど、お子さまの安全への意識が高まってきましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ○令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いにまるごと受け入れ、助け合う気持ちをもつようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	—

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 安全な生活に必要な習慣が身につくような指導を工夫する。 ----- 指標 ・安全な生活に必要なきまりを子どもたちと話し合ってつくり、学期に1回見直しをする。	B
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 自分の思いを伝え、相手の思いを聞こうとする子どもの育成に努める ----- 指標 ・自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりする機会を週2回以上つくる。 ・担任同士で子ども1人につき、月1回以上振り返る機会をつくる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・5歳児は、1学期当初に園庭での遊び方について話し合い、安全に遊ぶために必要なきまりをつくった。固定遊具や運動遊具の遊び方について話し合ったため、子ども同士で声をかけ合ってきまりを守ろうとする姿が見られるようになった。そのきまりを4歳児、3歳児もクラスごとに確認し、幼稚園内での共通理解を図った。また、子どもたちがつくったきまりをわかりやすくまとめた園庭の安全マップを作成して保護者に配付し、園庭開放中も安全に遊べるように共通理解を図った。 ・4歳児では、1学期、廊下やテラスを走っている場面が多かったため、クラスで話をすると、走ると転んだり、頭をうったりして危ないという意見が子どもから出た。その後、子ども同士で声を掛け合う姿が見られ、歩こうという意識は高まっているが、思わず走ってしまう子どもも少なくない。 ・3歳児では、7月、トイレのドアで手を挟んだり、トイレの床に寝転がったりする姿があったので、トイレの安全な使い方についてクラスで考えた。考える機会をつくったことでトイレの使い方を再確認することができた。 ・どのクラスでも、幼稚園で過ごす中で危険な場面があれば、その都度教師が言葉かけをしたり、クラスで振り返りを行ったりしている。そのため、幼稚園での約束を思い出し守ろうと	

する姿が見られるようになってきている。

- ・保護者の方にも降園時やホームページなどで、園での安全への取組や子どもたちの様子を伝え、共通理解を図っている。

取組内容②

- ・5歳児は、気付いたことや発見したことを共有できるように、ほぼ毎日遊びの後や降園前などに、話し合いの場を設けている。1学期は自分の思いや考えを教師や友達に伝えることができるよう、教師が言葉を補ったり仲介をしたりしながらその都度話し合うようにしてきた。振り返りでは、遊びを伝え合うだけでなく、困ったことや聞いてほしいことなど、いろいろなことを知らせ合うことで、自分の思いだけでなく、友達がどう思っているかを聞くことができるようにした。話し合いを積み重ねることで、2学期には教師が介さなくても、子ども同士が会話をして思いを伝え合う姿が見られている。
- ・4歳児では、振り返りの機会を週に3回以上設定することができている。4月当初は、子どもが自分の思いを言葉にできずトラブルになった際、泣いたり、怒ったりすることが多かった。教師が子どもの嬉しい気持ちや悲しい気持ちなど様々な思いを受け止め、友達への伝え方を一緒に考えることで、少しずつ言葉で伝えることができるようになってきている。振り返りでは、1学期当初、人前で話す場面で緊張したり、戸惑ったりする子どもが多くいたが、1学期後半からは自分の思いを言葉で伝えようとする姿が多くなってきた。また、2学期に入ると友達の話に耳を傾ける姿も見られ、クラスでその日の楽しかったことや嬉しかったことを共有する時間となってきた。
- ・3歳児では、教師が子どもの思いを受け止め、丁寧に話を聞くことで自分の思いを伝えられるようになってきている。1学期は特に、子どもの思いを教師が聞いて思いを受け止め、安心感をもてるようにした。2学期には、子どもが思っていることや感じたことを友達に伝えられるように、教師がわかりやすく代弁し、友達に思いが伝わる喜びに共感している。友達の前で話す機会を繰り返しつくることで、楽しかったことや出来事を言葉で伝えようとし、友達の話も聞こうとするようになってきた。
- ・担任同士で子どもの頑張っているところ、活動での姿、今後の課題など月1回以上子どもの状況について話し合う機会をつくり、子どもの実態を共通理解することで、保育内容に生かしたり環境の再構築を行ったりしている。打ち合わせ以外でもその都度課題を振り返ることで、教師のタイミングのよい働きかけや多面的に子どもを捉える視点につながっている。

後半への改善点

取組内容①

- ・園庭の安全マップを作成したが、季節によって遊びが変化し、危険な遊び方をしている様子が保育中や園庭開放中に見られることがある。安全な生活に必要なきまりを引き続き子どもたちと確認し、きまりを守る意識をもてるよう声かけをしていく。

取組内容②

- ・子どもの思いを丁寧に受け止めることを継続し、子どもが素直な思いを言葉にして相手に伝えられるようにし、また相手の気持ちを受け止められるようにしていきたい。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、様々な活動の中で、自分の思いや考えを表現し、試したり、工夫したりするようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ○令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、『体の健康』や『食育』について指導している」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	—

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】 子どもが試したり、工夫したりして遊ぶ楽しさを感じられるような環境構成や教育的意図をもった働きかけを工夫する。	B
指標 ・子どもが試したり、工夫したりして遊ぶ楽しさを感じられるような環境構成や教育的意図をもった働きかけについて、月1回以上協議する。	
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 親子で「体の健康」や「食育」について興味や関心をもてるような、保健指導や保護者啓発を行う。	B
指標 ・年11回以上保健指導をし、その様子を掲示物で保護者に伝える。 ・「食育」や「給食について」を掲載したほけんだよりを年12回発行する。 ・学期に1回以上、食育に関する保健指導をする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① <ul style="list-style-type: none"> 1学期から子どもの好きな体操曲や各月の誕生会、行事で使用した曲を一枚のCDにまとめたり、ポンポンを準備したりすることで、子どもが自ら体を動かしたくなるような環境を整えた。また、教師と一緒に体操したり、音楽だけでなくポンポンがあったりしたことで、遊びに参加しやすい楽しい雰囲気ができ、どの年齢の子どもも楽しむ姿があった。 水遊びの時期には、3歳児は食紅でつくった色水を混ぜて、色が変わっていく様子を見たり、比べたりして試していた。4歳児、5歳児は園庭に咲いている花をすりつぶしてつくった色水で遊んだ。花によって出る色が違うことや、濃い色水のつくり方など、友達と見合ったり、教え合ったりしながらつくることを楽しんでいた。また、水鉄砲の遊びでは、5歳児は水にあたっても壊れない素材は何かを考え、的づくりを楽しんだ。5歳児がつくった的に水鉄砲でどうやったら倒せるかを何度も繰り返し考えながら遊ぶ3歳児、4歳児の姿もあった。 泥遊びでは、初めにクラスで泥んこ遊びをする機会を設け、興味関心をもてるようにした。泥団子づくりでは、土の硬さや性質に気付いたり、しっかりと丸めるために工夫し

たりする姿が見られた。また、泥団子をつくりやすい土の場所を教師から知らせるのではなく、友達の様子を見たり、友達から聞いたりして、子ども同士で工夫し、試している姿を大いに認めた。

- ・ 9月、5歳児は段ボールを積み、新聞ボールを当てて倒す遊びを楽しんだ。段ボールの重さや大きさが違うと倒れ方が違うことに気づき、2チーム同じ形、同じ重さで競う遊び方を考えたり、段ボールの積み方を変えて難しくしたりし、遊びがより楽しくなるためにみんなで考えを出し合いながら遊ぶ姿が見られた。
- ・ 自分たちでつくって遊ぶことが好きな子どもが多いという実態から、様々な素材をクラスに置き、いつでもつくって遊べる環境を整えた。スーパーやドーナツ屋さん、ジュース屋さんやアイスやさんごっこに発展していったクラスもあり、自分たちで商品やお金をつくって楽しんだ。クラス内だけではなく、ほかのクラスにも売りに行ったり、買いに行ったりすることで、それぞれが刺激を受け、お店やさんごっこが広がっていく様子もあった。お店屋さんのやり取りを楽しめるように、必要な素材をタイミング良く出したり、何が必要かを子どもと一緒に考えたりすることで、子どもが遊びを展開していった。

取組内容②

- ・ 保健指導について、4月は「手洗い・うがい（年少・年中児）」、「手洗い・うがい・服の脱ぎ方たたみ方（年長児）」、5月は「食べ物の働き」、6月は「歯磨き指導」、「早寝早起きの大切さ（年少・年中児）」、「早寝早起き朝ごはんの大切さ（年長児）」、7月は「熱中症予防」、9月は「靴の履き方」に関する指導を実施した。保健指導後には、掲示物を作成し、玄関に掲示するとともに HP で保護者に指導内容を知らせた。
- ・ ほけんだよりの5月号、6月号では「給食の様子」、7月号では「夏野菜」、8月号では「夏を元気に乗り切る！食事のポイント」、9月号では「食欲の秋（秋が旬の食材）」について、食育に関する内容を掲載した。また、1学期終了時には早寝早起き歯磨きに関しての「なつのけんこうかれんだー」を作成して配付し、家庭でも「体の健康」について関心をもてるようにした。
- ・ 各学期に1度は食育に関する保健指導を実施するとともに、給食・お弁当時間に、当日の給食のメニューをもとに、どの食材が三食食品群の何色の食品なのかについてや、給食の食材には三色食品群がバランスよく入っていることを知らせ、主体的に何でも食べてみようと思う気持ちや食に関する興味関心を引き出せるような働きかけを行っている。

後半への改善点

取組内容①

- ・ 引き続き担任間、学年間でのこまめな話し合いをし、子どもが考えたり工夫したりできるような環境構成を工夫していく。
- ・ 今後の保育や遊びの環境を、学年での話し合い等で教師が伝え合い、園全体へと広がるよう全教職員が心がけていたが、勤務形態が異なるため、共有がうまくいかない場面やその場にはいない教師の意見が反映されにくいこともあった。今後は、共有事項のファイルを活用したり、多くの教職員が集まりやすい会議や職員朝礼で伝えたりするなどし、よりよい保育や環境づくりができるようにしていく。

取組内容②

- ・ 引き続き学期に1回以上食育に関する保健指導を実施することで、子どもたち自身が食に関して興味関心をもち、栄養バランスのよい食事から健康な体づくりにつなげていく。また、その様子や内容を HP や掲示物で知らせ、保護者啓発を続けることで家庭でも食に関する意識を高めていけるような取組を続ける。

大阪市立玉造幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○令和6年度末の教員向けアンケート調査で、「研修したことが、自身の資質向上につながった」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ○令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、園内の活動の様子や子どもの育ちを地域や保護者に発信しようとしている」との項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	—

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員同士が互いに学び合い、向上心をもって日々の保育に取り組めるようにする。		B
指標 ・園内研修保育を、12回以上実施する。 ・就学前教育カリキュラムを活用した週案、日案を作成し、保育に取り入れる。 ・1人3回以上記録を書き、その都度協議する。		
取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】 地域や保護者と連携した教育内容を計画するとともに、就学前教育の周知方法を工夫する。		B
指標 ・幼稚園ホームページを教員1人当たり月1回以上更新し、幼稚園の様子や子どもの育ちを発信する。 ・学年だより又は学級だよりを月1回以上作成する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容① ・園内研修会を、担任が1人1回行う計画を立て、計画通り進んでいる。園内研修会を通して、互いの保育を客観的に見て話し合うことで日頃の保育の振り返りをしている。今年度から認定こども園になったことで教員の数が増え、勤務がシフト制になったため、園内研修会に毎回全員が参加することは難しい。各クラスの担任どちらか一人が参加し、その後の反省会も含めた内容を伝達するようにしている。 ・就学前教育カリキュラムを活用して週案を作成し保育に取り入れ、知・徳・体をバランスよく育てるように努めている。 ・5月・7月・9月に実践記録を書いた。担任同士で話し合ったり、全体で協議する場を設けたりして、記録の書き方や教師の働きかけについて学んだ。また、他園の研究保育に参加し、学んだことを口頭や回覧で周知し、教員全体の学びにつなげた。さらに、各クラスに担任が2人いるため、意見を出し合いながら、日々の保育に取り入れている。クラスの保育だけでなく、2号認定児の保育を全教員シフト制で行っているため、いろいろな教師の声掛けや保育を見ることができ、学びになっている。		
取組内容② ・幼稚園ホームページを中心に子どもたちの遊びの様子や活動を更新することができてい		

る。今年度より教職員数も増えたため、それぞれの視点からクラスでの活動や季節ごとの園内の自然、園全体の様子を発信している。教員 1 人につき月 1 回以上の学校日記での発信ができていたため、継続していきたい。

- ・今年度からこども園になり、降園時に担任が保護者と直接話せないことが増えたが、保育中の活動をホワイトボードに記入しクラスごとに掲示したり、連絡事項については 2 号認定児用の連絡掲示を活用したりして、降園時に保護者に保育中の様子を伝えられるようにしている。
- ・学年だよりは毎月末に作成し掲示している。遊びの展開や子どもの育ち、その中での教師の教育的意図をもった働きかけなど、保護者に伝わりやすいよう意識して作成をしている。

後半への改善点

取組内容①

- ・引き続き、計画通り進めていく。

取組内容②

- ・ホームページを更新した際の周知が十分ではないため、年度当初に決めていた、記事を作成した教職員がお知らせの掲示も同時に行うことを改めて確認し、効果的に活用できるようにしてする。
- ・保護者への発信については、今後もクラスや学年での様子や育ちを分かりやすく伝えることを引き続き意識する。
- ・学年だよりについても、掲示の際に保護者の方への周知が十分ではないため、降園連絡などで知らせるようにする。11 月以降は順次学級だよりに変更していく予定である。